

# 西洋中世学会 第18回大会プログラム

2026年6月6日(土)・6月7日(日)

岡山大学 津島キャンパス

文法経講義棟：全体会場、控室、書籍展示コーナー

文法経1号館：ポスター発表展示、託児コーナー

(対面開催のみ)

**6月6日(土)**

10:00-12:00 常任委員会(会議室(1号館))

12:00 受付開始

13:00-14:00 総会(会員のみ)(20番教室(講義棟))

## 14:00~18:15 自由論題報告(20番教室(講義棟))

(別資料「自由論題報告要旨」参照)

14:00-14:45 森下 勇矢(独立研究者)

沈黙の騎士—『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』における道化の変容—

司会：高名 康文(成城大学)

14:50-15:35 浅野 ひとみ(名古屋大学)

アルフォンソ10世『豪華写本』挿絵における「鷹狩り」

司会：久米 順子(東京外国語大学)

15:40-16:25 上遠野 翔(東京大学)

「神学」の位置付けと「神学者」の位置付け

—トマス・アクィナスからギヨーム・ド・ピエール・ゴダンまで—

司会：松根 伸治(南山大学)

16:25-16:40 休憩

16:40-17:25 西川 雄太 (埼玉学園大学)

カテキズムの変容と読者層

—アビンドンのエドモンド『教会の鏡』から『信者の覚書』へ—

司会：井口 篤 (慶應義塾大学)

17:30-18:15 岡本 信照 (京都外国語大学)

なぜネブリハは中世の文法書 *Doctrinale* (1199)を否定したのか？

—『ラテン語入門』(1481)との対比を通じて—

司会：赤江 雄一 (慶應義塾大学)

18:45～20:30 懇親会 (大学生協)

(事前申込制、当日受付不可。子ども同伴可、8歳以下無料)

6月7日(日)

9:00 受付開始

9:00～11:30 ポスター・セッション (21番・23番講義室 (講義棟))

(別資料「ポスター報告要旨」参照)

1. 井上 さらさ (清泉女子大学)

ロマネスクの教会建築におけるグリーンマン彫刻の神学的解釈の可能性

2. 清水 悠佑 (早稲田大学・日本学術振興会特別研究員 DC2)

レクシヨナリー形成期における例外的写本群

3. 宮田 暁乃 (慶應義塾大学)  
サン・ガルガーノ礼拝堂における大天使ミカエル崇敬の可能性  
— 装飾壁画の図像学的再検討 —
4. 久保田 風史郎 (慶應義塾大学)  
機械式時計は何をもたらしたのか  
— 中英語アーサー王物語にみる後期中世の時間意識と運命の車輪 —
5. 春木 さくら (東京都立大学)  
中世後期カスティーリャにおける貴族のユダヤ人頭税徴収権の継承と都市支配  
— グアダラハラのもンドーサ家の事例 —
6. 立花 香里 (同志社大学)  
*The Canterbury Tales* への巡礼一木になる実のイメージを通して —
7. 番井 大斗 (京都大学)  
イタリヤ系ギリシア聖人伝における「自己」像と「他者」像の形成  
— 『聖ネイロス伝』の分析をもとに —
8. 池田 拓実 (早稲田大学)  
中世後期イングランドの特権領と周辺社会  
— ダラム司教とニューカースル・アポン・タイン市によるタイン川をめぐる争いから —
9. 徳永 裕太 (東京藝術大学)  
殉教・聖体・聖餐—ディーリック・バウツの2つの殉教を中心に—
10. 小森 紗季 (大阪公立大学)  
14世紀初頭トゥールーズ東部地域における「善き人」の信仰拡大について
11. 伊藤 光 (東京都立大学)  
教会領の抵当化と委任—14世紀ザルツブルク大司教領に注目して—
12. 畠山 翼 (早稲田大学)  
迫害と生成—ベガン運動の拡大と変容をめぐって—

11:30~12:45 昼休み

11:40~12:40

DH ワークショップ：手書き文字認識ツール入門

(会議室 (1号館)。事前申込制)

12:45～16:45

シンポジウム「司教座都市と大聖堂

—ナラティブ・アイデンティティ・ネットワーク—

(20 番教室 (講義棟)。別資料「シンポジウム報告要旨」参照)

コーディネーター：伊藤 喜彦 (東京都立大学)

- 12:45-12:55 趣旨説明：伊藤 喜彦
- 12:55-13:30 成川 岳大 (立教大学 (兼任) ほか)  
中世北欧における司教事績録の移転と大聖堂の記憶
- 13:30-14:05 山本 成生 (上智大学)  
シャルトル大聖堂の内陣仕切りをめぐる信仰空間
- 14:05-14:10 休憩
- 14:10-14:45 桑原 夏子 (京都産業大学)  
サンリス大聖堂扉口装飾を起点とする図像伝播について
- 14:45-15:20 新居 達也 (お茶の水女子大学)  
大聖堂の間テキスト性  
—セント・ポール大聖堂回廊の『死の舞踏』をめぐる
- 15:20-15:55 嶋崎 礼 (九州大学)  
近世におけるゴシック様式の選択—オルレアン大聖堂を例に
- 15:55-16:05 休憩
- 16:05-16:15 コメント：木俣 元一 (名古屋大学名誉教授)
- 16:15-16:45 全体討論
- 17:00～17:15 ポスター賞表彰式 (20 番教室 (講義棟))

以上